

平成28年度 第2回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会(議事概要)

1 開催日時・場所

平成28年9月15日(木) 15時15分～17時15分 東北森林管理局 2階 大会議室

2 出席者【委員】

黒瀧委員、高橋委員、林委員、守屋委員、網委員、佐々木委員、安部委員、小野寺代理

3 検討結果

現時点では特に供給調整の必要はないが、チップ用原木については、バイオマス発電用の需要増大により価格が高値で推移し、供給量不足も心配されることから、国有林には引き続き価格あるいは需要の動向を注視していただきたい。

4 主な意見

1)国産材需給

- ① 製材用原木の価格は下げ止まり傾向。引き合いは8月以降多少強まったが、大径木は不調が続いている。合板用原木についてはスギは依然として引き合いが弱く、カラマツについても動きが鈍くなってきた。製材工場では原木在庫が減少している工場も一部あることから、今後の原木価格の動向を注視している。
- ② 住宅建築では、大手ハウスメーカー主導で、地元工務店は新規物件が殆ど取れていない。プレカット工場は依然として忙しい状況が続いているが、地元工務店では大工等技術者の確保が課題となっている。
- ③ スギ集成管柱の需要は依然として高く増産体制を整えている。ラミナ用原木の入荷は順調な状況であるが、製品価格が据え置きのため、原木やラミナの価格も横ばい。
- ④ 国産合板は、生産量・出荷量とも大筋堅調。原料のスギ丸太については順調に入荷。繊維板の原料となる廃材や木材チップがバイオマス発電用と競合し価格が急騰。製品価格に転嫁できず苦慮。
- ⑤ バイオマス発電用原木については、数量の確保が難しい状況となっている。各地で発電所の稼働が始まり、局地的に供給量のアンバランスが生じてきている。地域の供給可能量をきめ細かく精査しバランスを取る必要がある。

2)他地域への輸送・輸出

- ① 中国への原木輸出は見積りはあるものの、契約には至らず見合わせとなっている。
- ② 中国の古紙需要が減少したため、製紙工場での古紙を使用するウェイトが高くなっているようだ。そのため、局地的にはあるが針葉樹チップ用原木はあまり売れていない。
- ③ 秋田県では、11月から韓国釜山に県産材の展示ブースを設置し、2月にはソウル近郊の展示会に出展し市場調査を予定。